

16 情報検索

Web 検索、文献検索、新聞記事検索と
その他のデータベース検索などがあります。

- インターネットで最もよく利用される用途は、Web 閲覧です。Web ブラウザを使ってインターネットの Web サイトを閲覧していくことは、皆さんにはすでに日常的なことになっているでしょう。ただし皆さんが大学の学修やレポート作成、研究などで本格的に Web を利用するのであれば、今までのように何となく Web を眺めているだけでは効率よく情報を得ることができません。インターネットを利用した効率的な情報検索の技術が必要です。情報検索については次の3つのジャンル、(1) Web 検索、(2) 文献検索、(3) 新聞記事検索とその他のデータベース検索、に分けて考えましょう。これ以外にもいろいろな情報検索がありますが、本項では大学生活に密接な上の3種類を中心に説明します。

Web 検索

Google や Yahoo! などの 検索エンジンを使い情報を絞り込む

- Web 検索は、私たちがインターネットで最も普通に行っている Web 閲覧そのものです。次の事柄を十分に使いこなせる必要があります。

① 検索エンジンを使って調べられること

- Web 検索には Google や Yahoo! などが主に使われていますが、これらは検索エンジンといってキーワードを入力してそれに関連する Web ページを探し出してその一覧を表示させたり、カテゴリとかディレクトリと呼ばれているジャンル分けに従って、調べたい目的の Web ページを探し出したりする機能を提供するサイトです。

最近ではこれらのサイトは単なる検索だけでなく、画像検索やオンライン地図、ニュース検索などさまざまな検索機能が備わっています。地図検索だけをとり、単なる地図の検索だけでなく、2点間の鉄道を利用した道順や自動車での道順が検索できたり、衛星画像、あるいは Google のストリートビューのようにその地図の任意の地点での実写映像が提供されるサービスや goo 地図の歴史地図のように都心部に限りませんが、現在のある地点の江戸時代、明治時代、近年の地図が検

索されて出てくるものもあります。

このほかにも辞書や天気、地図、路線探索、テレビ番組表など皆さんの学修や生活に役立つ道具がいろいろと用意されています。

② 検索情報の絞り込み

- 検索エンジンを使ううえで、覚えておきたい大切なテクニックは、検索情報の絞り込みです。多くの検索エンジンは、単語間をスペースを空けて並べると、それらを AND 検索してくれます。例えば検索語として、「長野県 スキー場」と入力したとしましょう。
- AND 検索とは、「長野県」という語と「スキー場」という語を両方とも含む Web ページが検索されてきます。この場合、検索をしてヒットしてくる Web ページは、長野県にあるスキー場について書かれた Web ページが検索されてきます。
- 一方、OR 検索を行うこともできます。いずれの検索エンジンでも、「長野県 OR スキー場」とすると、「長野県」または「スキー場」のどちらか一方を含む（もちろん両方共含む場合も）Web ページが検索されてきます。
- また、NOT 検索という機能もあります。検索語の前に半角の「-」（マイナス記号）をつけるとその語を含まないページが検索されます。例えば、「長野県-スキー場」とすると、「スキー場」という語を含まない長野県について書かれた Web ページが検索されてきます。この例では2語で示しましたが、これらの検索式を3語以上で相互に組み合わせることもできます。
- Web 検索を効率よく行うコツはこれらの検索語や AND 検索、OR 検索、NOT 検索を組み合わせる検索結果を適切に絞り込んでいくことです。なおここで示したように検索式は「OR」や「-」記号を使って直接キーワード検索の入力欄に書き込むこともできますが、いずれの検索エンジンにも「検索オプション」という項目があるので、それをクリックすると詳細な検索画面を利用することができるようになります。

文献検索

図書館の蔵書はインターネットから検索可能です

- 大学生にとって、自分の学修したい分野やレポートの与えられた課題に関連するさまざまな情報を得るために、多くの書籍や論文を調べることは最も大切なことです。そのために大学は大きな図書館を備えているのですが、近年はそうした図書館の蔵書検索はコンピュータによって検索することがほとんどです。こうした蔵書検索システムを一般に OPAC (On-line Public Access Catalog) と呼んでいます。
- 本学の図書館にも OPAC (<http://www.tamagawa.ac.jp/library/>) があり、それをインターネットから利用することで図書館の蔵書を調べることができます。最も有名でかつ大規模な OPAC は、国立国会図書館の OPAC で NDL-ONLINE (<https://ndlonline.ndl.go.jp>) というものです。国会図書館は日本で唯一の

法定納本図書館として原則として日本国内で出版されたすべての出版物が納本・保存されています。したがって、国会図書館の NDL-ONLINE は日本国内で出版されたすべての出版物を検索することが可能なのです。

- 一方、自分の大学の図書館にはないが、他の大学には蔵書があるというような書籍もあります。このような場合、他大学の図書館の図書から必要なページをコピーして送ってもらったり、図書そのものを借りることもできます。そのためには自分の調べたい書籍がどこの図書館にあるのかを調べなければいけません。
- そのため用いられるのが国立情報学研究所 (NII、<https://www.nii.ac.jp>) が提供している CiNii Books (<https://ci.nii.ac.jp/books>) です。こちらも OPAC 同様に書籍の検索ができますが、さらにその図書がどこの大学図書館にあるのかその一覧も示してくれます。あるいは自分の大学の図書館を通じて資料を取り寄せたりすることができます。

■ 玉川大学 OPAC

The screenshot displays the OPAC search interface for Tamagawa University. The main search area includes a 'Keyword' input field, a 'Material Type' dropdown menu (with 'All' selected), and a 'Language' dropdown menu (with 'All' selected). There are '検索' (Search) and '入力クリア' (Clear Input) buttons. Below the search form, there are checkboxes for '漢字を標準化して検索' (Standardize Kanji for search) and '一覧表示件数' (Number of items to display) set to 20. The 'ソート順' (Sort order) is set to '関連性' (Relevance). At the bottom, there is a '検索履歴' (Search History) section showing the current search criteria: Opac検索, NII検索, 検索条件, 和洋区分, 図書 (統一書名集), and 雑誌 (著者名集). A message at the bottom states '検索履歴はありません。' (No search history).

新聞記事検索とその他のデータベース検索

大学図書館にデータベースがあるので有効活用をおすすめします

- インターネット上の新聞社のWeb サイトでは、最新のニュース記事やコラム記事などが掲載されています。また記事検索の機能ももっています。しかし、検索できる記事は新聞社により過去1か月～半年程度というところが多いようです。それ以前の記事を検索するには、有料の会員登録をしなければなりません。
- 大学図書館ではこうした記事検索のデータベースと契約を結び、学生や教職員が記事検索が行えるサービスを提供しています。ただし有料サービスなので、同時に接続できる端末数や利用時間が限られている場合があります。そのため図書館の利用規定に従って利用することになります。
- こうしたデータベースには新聞記事だけでなく、学術雑誌の論文データベース（海外も含む）や雑誌記事情報、企業情報、人物情報など、さまざまなデータベースがあります。
- これら本学が契約しているデータベースや検索サービス、電子ジャーナル等の一覧と利用の窓口については本学の教育学術情報図書館のWeb ページ (<http://www.tamagawa.ac.jp/library/>) の中の「検索」の項目の中でまとめて紹介されています。また文献検索ガイダンスが年間に何回も行われており、そこでより詳しい説明があり検索方法を身につけることができますので、積極的に参加することをお勧めします。
- なお、本学が提供しているサービスの多くは学内からのみ利用可能です。

以上、検索方法について説明しましたが、インターネットから自分の必要とする情報を集めてレポートや論文にすることに非常に参考になる本をいくつか挙げておきます。

- 『大学生のためのレポート・論文術 インターネット完全活用編』
小笠原喜康、講談社現代新書、2009年
- 『理系のためのインターネット検索術』
時実象一、講談社ブルーバックス、2005年
- 『書くためのデジタル技法』
二木麻里、中山元、ちくま新書、2001年

- Web サイトとしては次のサイトがおすすめです。
 - アリアドネ (<http://ariadne.jp/>)
※人文系のリソースについてのリンクを集めたサイト
- このほかにも各専門分野ごとに充実したリンク集があるので検索してみるとよいでしょう。例えば Google で検索キーワードを「植物学 リンク集」として検索すると、次のような良質なリンク集が見つかるはずで

- 植物学リソース
(<http://loasa.s15.xrea.com/botany/>)

- ほかの分野についても同様なので、各自で試みてみましょう。また、そうやって得られた有用なリンク集は自分のパソコンのWeb ブラウザの「お気に入り」とか「ブックマーク」に登録しておきいつでも利用できるようにしておくともよいでしょう。